

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 ■ 事務事業の概要

1 事務事業の名称	避難所用品の整備事業									
1 - 2 担当	部	市民生活部	課 又は施設	総務防災課	係	防災安全係	評価票作成者	防災担当係長	山本 茂	
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	生活環境				基本施策	防災		コード	1—3—1
		「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」				単位施策(中)	防災体制の確立		コード	1—3—1—2
	項	生活安全・安心				単位施策(小)	避難所の充実		コード	1—3—1—2—1
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	市立各小中学校 1 2 校、保育園 1 0 園、どんぐり学園 計 2 3 箇所		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		避難所となる各小中学校、保育園に災害用備蓄品の分散備蓄を図ることにより、災害発生直後より避難所開設に必要な資材を確保することが出来る。また、救助資材もあるため、地域住民の手による救助活動の助けにもなり、市民の安全確保の一助になる。				
1 - 5 事務事業の内容	いつ起きても不思議ではない災害に対し、日ごろからの備えとして災害用備蓄品の備蓄を図り、市民の安全・安心を確保する。ホームページ等に避難所、避難所で備蓄している備蓄品の公表などして広く市民に周知していく。									

2 ■ 事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み 備蓄品の数量の確保もさることながら、配備品の内容の充実を図ることを心がけた。	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握 本市も高齢化率が上がり、高齢者や障害者といった災害時要援護者への配慮をした物資の配備が必要となってきている。		市民ニーズの認識 各町内会で自主防災組織も結成され、市民の防災訓練への参加も多くなり、市民の地震災害等への安心・安全に対する意識は高まってきている。	
	平成19年度	今後、高齢化に向けた備蓄品の整備。	一人で避難できない人、一人暮らしの高齢者、障害者の避難支援。		〃	
	平成20年度	〃	〃		〃	
	平成21年度	分散備蓄を進めるため、消防署南部出張所の一画を備蓄倉庫に利用し、災害時に備える体制を強化。	災害時要援護者の避難所の備蓄品の整備。		災害時における要援護者の避難支援の整備。	
	平成22年度	災害時要援護者優先避難所として指定している市内保育園に、備蓄計画を作成し、計画的に備蓄品を整備する。災害時における要援護者の避難支援の整備や、避難所の備品整備について、ニーズが高まっている。				
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					
	平成27年度					

2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明	
	一避難所当りの1人が行政サービスを受ける金額		2,000(円)	5,000(円)	阪神淡路大震災以降、災害備蓄の充実を図って、1千万円ほどの物資が備蓄されているが、その金額を避難者7,000人の1避難所当たりの金額。	

2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a（事業）	14	14	14	15	17					
	直接事業費 b（千円）	9,110	4,858	4,227	4,653	2,854					
	人件費 c（千円）	128	128	128	128	124					
	合計コスト d（b + c）（千円）	9,238	4,986	4,355	4,781	2,978					
	単位コスト d / a（千円）	1 避難所当たり 659	1避難所当たり 356	1避難所当たり 311	1避難所当たり 319	1避難所当たり 175	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 ➡ 活動用備品と消耗品（期限入れ替えの食料品は除く）に分け事業を実施。
避難所活動用備品（車椅子用トイレ、簡易ベッド、間仕切り、車椅子）1,110千円 消耗品1,114千円（非常食入れ替え分）、追加分630千円(殺菌消毒液、絆創膏等206千円、備蓄用燃料424千円） 人件費（事務経費）...3,100円/ h × 40 h = 124,000円 直接事業費（1 8 年度 + 1 9 年度）÷ 避難所（1 2 箇所）= 指標対応実績【2-4】20・21年度については、避難所活動用備品と消耗品を加えた金額を後期目標値（5,000円）に改めた。18.19年度は、食料に限っての目標値であり、追加分が増加分としか反映されないため目標値の設定の考えと矛盾するため。1,110千円 + 1,114千円 + 206千円 + 424千円 = 2,854千円を7,000人の避難者で除した値408円を前年度に加えた金額。（1,983円 + 408円 = 2,391円）、2,391 ÷ 5,000 × 100 = 47.8（％）となる。また、備蓄食料更新に係る費用も含めた。

2 - 4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移											
	指標対応実 績（単位）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	後期目標値 に対する達 成度（％）	659(円)	714(円)	1,318(円)	1,983(円)	2,391(円)					
		13.2(％)	14.3(％)	26.4(％)	39.7(％)	47.8(％)					

3 ■ 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	単年度 担当課評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		A	A	A	A	A					

- 4段階評価結果

A：上位目的である施策に貢献しているので継続する
B：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
C：縮小等、事務事業としての見直しが必要
D：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）
公共性（公が実施する意味があるか）
妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	市民の防災に対する関心が高まっており、東海・東南海地震の発生までには備蓄の配備を完了させ、市民への安心を確保したい。	災害時要援護者にも配慮し、数的確保、備蓄品目の充実を図るとともに、より安価で、機能性にも優れ、なおかつ環境的にも優れた物品の配備に心がける。	単年度ですべての物品を配備することは困難であり、そのなかで優先順位を付け、優先順位の高いものを配備した。
	平成19年度	東海・東南海地震が危惧されている中、市民の安心を確保するため備蓄を進めていきたい。	〃	災害時要援護者への配慮を重点に備蓄を進めることができた。
	平成20年度	〃	〃	〃
	平成21年度	〃	〃	〃
	平成22年度	東海・東南海地震が危惧されている中、市民の安心を確保するため備蓄を進めていきたい。 災害時要援護者にも配慮し、数的確保、備蓄品目の充実を図るとともに、より安価で、機能性にも優れ、なおかつ環境的にも優れた物品の配備に心がける。 災害時要援護者への配慮を重点に備蓄を進めることができた。		
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 ■ 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の 結果	結果		審査会による改善方向の指示
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度	A	継続して事業を進めること。
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。
	平成21年度	A	継続して事業を進めること。
	平成22年度	A	継続して事業を進めること。
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		